

場所		揺れから身を守る / 備えの段階 / A-1-4 「その他事前の備え・対策」
日時		

	主体						
	自助(県民・事業所など)		共助(自主防災組織・ボランティアなど)		公助(県・関係団体など)		
	誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか	誰が	どのようにするか	
時間軸	備えの段階	県民	<ul style="list-style-type: none"> ○地震・津波情報をキャッチする手だてを準備する(家、事業所など) ○主な生活場所での身を守る場所をあらかじめ知っておく ○マンションなど高層建築物の安全避難路の準備 ○自分の住んでいる地域や、自宅がどのような土地に建築されているか認識し、いざの時に備えておく(山をきり開いた土地なのか、河川を埋め立てて作られた土地なのかなど) ○危険箇所特定図の作成 ○普段よく往来する道路等の危険箇所を熟知しておく ○危険物の所在の確認と対応方針策定 	自主防災組織等 学校等	<ul style="list-style-type: none"> ○地震の専門家に帯同して、町内の危険箇所の実地点検を実施して、住民に周知する ○避難場所となる学校等と連携した訓練等をおこなう ○福祉施設等を考慮した取り組みをおこなう ○危険物マップの作成及びケーススタディー ○教職員も学校のある地域での各種訓練に積極的に参加する 	県・市町村 市町村	<ul style="list-style-type: none"> ●盛り土の工業団地・住宅団地ハザードマップを作成する(A-2-1) ●豪雨後の地震の被害推定(A-2-1) ○土砂災害、揺れやすさ等のハザードマップの作成 ○自販機対策の指導
		事業所	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所の所在地での各種訓練に積極的に参加する ○事業所防災組織の立ち上げと近隣協力体制の確立 				
	福祉施設等	<ul style="list-style-type: none"> ○地域、特に自主防災組織に、施設の状況やどういふ援助が必要か等、十分な連携を図る 					
					市町村	○事業所防災組織立ち上げ及び災害時協力体制確立の指導(I-1-3)	
地震発生時							
応急・復旧段階	県民、事業者	○危険物を取り除く(安全確保、二次被害の防止)					
復興段階							